



言葉の TPO

いま田中角栄ブームが再熱している。
 29歳で初当選、39歳で郵政大臣、54歳で内閣総理大臣。
 新潟の貧しい家の出身で小学校しか出ていないのにもかかわらず、艱難苦難を舐めながら、土建会社を立ち上げ、総理にまでなった男。
 彼をマスコミは『今内閣』と呼んだ。
 田中角栄は演説の名手であった。
 壇上での第一声で、観衆の心を驚つかみにする。
 ロッキード事件後の演説では『私がああのロッキード事件の田中角栄であります』とやる。
 成人式には成人たちに向かって、壇上に上がるや否や『諸君おめでとう！ 田中角栄以上！』とやった。
 祝辞だの長ったらしい話など聞きたくもない。
 若者のこころも瞬時にとりこにする、人心を掴む術を持った人だった。
 その田中角栄は言っている。
 「何かを発言するときは、TPO を考えて発言しろ 『言っていること・言っているとき悪いとき・言っている人悪い人』」
 この名言は、まさに言葉の TPO についての最高のバイブルだ。
 最後の『言っている人悪い人』は、その立場やキャラによっては許されても、立場が変わるとタメロになる。と説いているのだ。



情報提供: 特別情報紙

国交省税制改正要望、長期優良住宅化リフォームに税制優遇

国土交通省は8月29日、来年度の税制改正要望をまとめた。



住宅関連では、リフォームに対する減税措置の拡充を盛り込んだ。
 具体的には長期優良住宅化リフォームによる、建物の劣化対策など耐久性向上につながる改修を行った場合の減税額を拡充する。

増改築により、耐震・省エネ改修と併せて耐久性向上工事を行い長期優良住宅の認定を受けることが要件。

工事費などの10%を所得税から控除できる措置の最大控除額を現行の25万円から40万円に拡充するほか、ローンを使った場合に、ローン残高の一定割合を税額控除できる措置でも最大控除額を現行の62.5万円から70万円に引き上げる。
 また、工事翌年の固定資産税を減額する措置でも、減額割合を現行

の2分の1から3分の2に引き上げる。

情報提供: 新建ハウジング

経産省概算要求 ZEH普及など省エネ推進予算を倍増要求



経産省は2017年度予算の概算要求をまとめた。
 要求額は前年対比9.5%増の1兆4457億円。住宅関連として、ZEHや省エネ型リフォームの補助に、工場の省エネ化などと合わせて1140億円を要求。
 今年度の予算額515億円と比較し、倍以上の要求額となった。来年度の住宅市場傾向を見ながらの事業配分となる。
 また、エネファーム等導入補助要求として104億円(今年度95億円)を盛り込んだ。

税制改正要望では、中小企業に対する法人税の軽減税率の延長、中小企業投資促進税制の即時償却等や固定資産税の軽減対象として省エネ設備等を新たに加えることも要求に加えた。

情報提供: 新建ハウジング